

モリサワのいまをお届けする【モリサワマガジン】

ISSUE  
16

# Morisawa Magazine

2023 | SUMMER

＝動画で解説＝  
モリサワフォントができるまで

モリサワ

P.4 使用事例でみるモリサワフォント

P.5 モリサワが第22回「佐藤敬之輔賞」企業・団体部門を受賞

P.6 カタログポケットが「IAUD国際デザイン賞2022」  
インタラクティブデザイン部門の銀賞を受賞

P.7 「やまがた創生プロジェクト研究」への貢献により「紺綬褒章」受章

P.8 ジャンルを超えて多くの方に読んでほしい一冊  
『奇跡のフォント 教科書が読めない子どもを知って  
— UDデジタル教科書体 開発物語』

動画で解説

# モリサワフォントが できるまで

モリサワフォントは多くの工程を経て、世の中にリリースされます。

「フォントって何文字あるの?」「手書きでつくるの?」「どうやってできるの?」など  
フォント制作の裏側を解説した動画を公開しています。

フォント制作というと、「フォントデザイン」が注目されがちですが、実はフォントづくりにはデザイン以外にもさまざまな工程があります。フォントは、いわゆる文字の形状だけではなく、縦書き横書きの対応、詰め情報、書体によっては前後の文字に依存するグリフ変換など、さまざまな情報が詰め込まれているからです。またフォントが完成した後にも、フォント製品としてみなさまにストレスなく使っていただくために多くの社員がサポートしています。モリサワのフォントができるまでは、右記のような6つの工程に分けることができます。この他にも、法務/サポート/営業などさまざまな部署が関わってみなさまにフォントをお届けしています。

このたび、フォントが製品化されるまでの6つの工程を、動画「モリサワフォントができるまで」にまとめました。街中で使われているさまざまなフォント探しをしている方がモリサワに訪問し、和文フォントの制作工程の説明を聞くというストーリーです。

フォントの制作は、リサーチや企画から進行管理を務める「タイプディレクター」、その提案に沿ってデザイン設計を行い、さらには文字拡張、検査まで行う「タイプデザイナー」、フォント製品化のアウトライン編集やビルドと呼ばれる作業を行う「エンジニア」の3~6名でチーム編成されます。チームで話し合い、形のデザイン設計だけでなく、用意する太さの展開、文字セット、特殊機能設定、追加グリフなどが決まっていきます。

フォント制作というと、原図用紙と呼ばれる碁盤目状の紙に手書きでデッサンすることをイメージされる方も多いかも知れません。今でもモリサワのタイプデザイナーは、入社研修の一環で、このような手書きによるデッサンの研修を行っています。書体デザインの基礎を養うためです。過去には、フォントの原

## フォントができるまでの工程

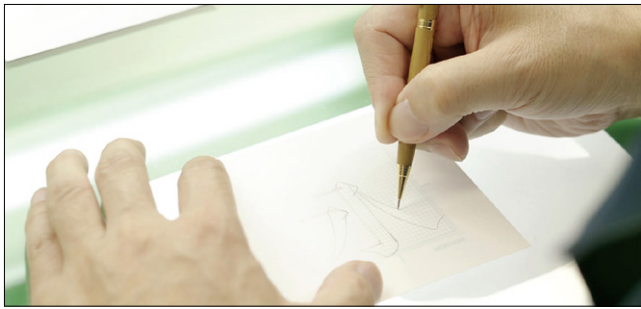
- ✓ リサーチ
- ✓ デザイン設計
- ✓ 検査
- ✓ 企画
- ✓ 文字拡張
- ✓ 製品化



タイプディレクター、タイプデザイナーらによる企画会議の中で、デザインの方向性や用意する太さの数や特殊な機能などを決めます。



縦線と横線のバランス、トメ、ハライの形状など、書体として統一性を持たせるための基準となる文字=モデル文字を制作します。



かつては、原図用紙に手書きで一文字ずつデザインされていました。現在でも手書きからアウトラインをとって書体化するものもあります。

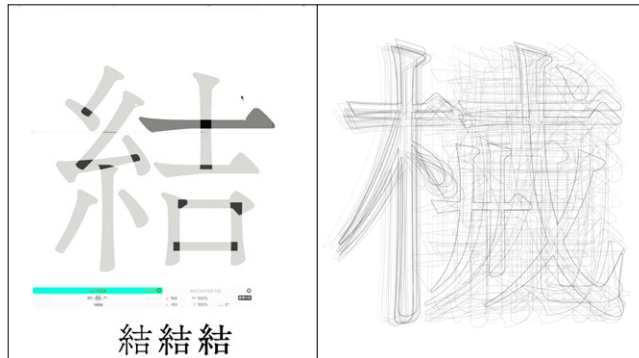
図はすべて手書きされていたが、現在はデジタルソフト上での制作が主流になっています。

1つのフォントに、何文字が収録されているのかご存知でしょうか？ 収録文字数は「文字セット」と呼ばれる規格によって異なります。モリサワが扱っている日本語フォントは、少ないものでおよそ4,000字、多いものは2万字を超えます。そのため、モデル文字と呼ばれる400~600文字を制作、その後、かな／漢字／数字・記号／アルファベットなどに分け、文字の拡張を行います。その際、同じ「へん」や「つくり」のパーツを活用していきますが、実際には、同じへんであっても、隣にくつくりの形や画数などによって微妙に調整していくため、全く同じ形ばかりではありません。細かな調整をしながら2万字を制作し、それらの文字のバランスを調整していくのは、大変な作業ですね。そのため、フォント制作には通常2~3年という長い時間がかかります。エンジニアが行うビルド作業とは、文字コードとアウトラインを紐付けたり、フォントごとに特殊機能を設定したりする作業です。たとえば、2021年の新書体である「澄月（ちょうげつ）」というフォントは、連綿体（つづけ字）の機能を備えており、前後の文字によって自動でつづけ字を表現することができますが、そのためのプログラミングもビルド作業の中で行われているというわけです。

そのほか、デザインの検査／文字ごとのデータ検査／熟語など文字を並べての検査／アプリケーション上での検査など、さまざまな確認作業も大切なことがわかる動画です。新しい技術のバリエーションの開発も紹介されています。バリエーションフォントとは、太さや傾きを自由に調整できるフォントです。すでに、世の中に出始めていますが、モリサワも実用に向けて開発を進めているところです。



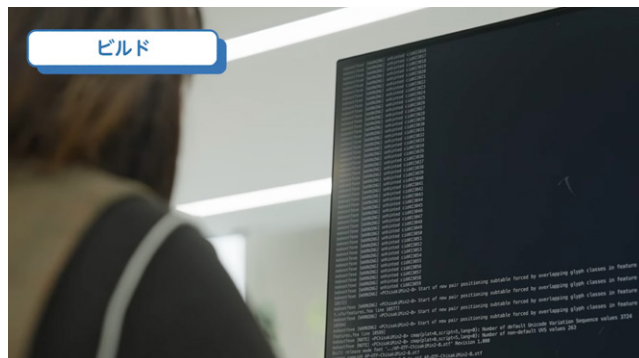
動画の中では、実際にモリサワで働いているメンバーの作業シーンなどがご覧いただけます。どのようにフォントができていくのか？ 作業現場を覗きながら理解を深められる動画「モリサワフォントができるまで」を、どうぞお楽しみください。



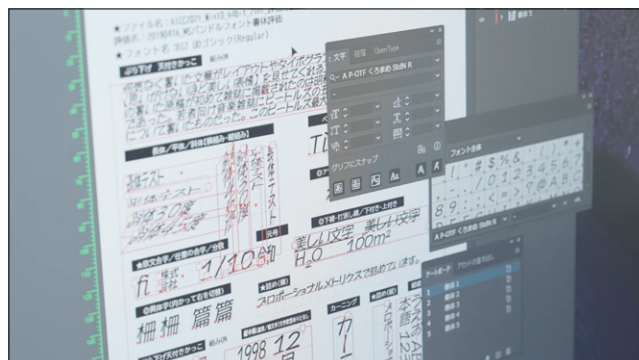
同じへんなどのパーツを活用して文字の拡張を行いますが、同じへんであっても、隣にくつくりの形や画数などによって調整が必要です。



検査の際には、パソコン上でのチェックだけでなく、実際に印刷したときにどう見えるかも確認しています。



ビルド作業とは、文字コードとアウトラインを紐付けたり、フォントごとに特殊な機能を呼び出せるようにするなど、作り込む作業です。



アプリケーション上で正しく動作するかの確認を行う、最終評価。これを経て、ようやく世の中に提供できるフォントとなります。

「モリサワフォントができるまで」はこちら  
<https://youtu.be/FJvtZLbp9Bg>



# 使用事例でみるモリサワフォント

あらゆるシーンでデザインを彩るフォント。

さまざまなコンテンツで導入いただいた最近の事例をご紹介します。

## ウサギの すあなに いるのは だあれ?

書籍

企業名:株式会社徳間書店

使用書体:丸ツデイ

翻訳絵本の書体は、その作品の世界観を大切にしながら書体が選ばれています。採用事例の絵本では、ユーモアのある印象を与えるために原作と同じ系統の書体(セリフ体)ではなく、丸ゴシックをご利用いただいています。



[インタビューはこちら▶](#)

## 画像動画編集アプリ BeautyPlus

アプリ

企業名:PIXOCIAL TECHNOLOGY

使用書体:ハルクラフト、リュウミン B-KL、鬮龍、プリティー桃、勘亭流、べんぱる、カモライム U、隷書101、ハッピー N H、新丸ゴ M

ポップでかわいい印象のデザイン書体から、人気アニメで一躍有名になった筆書体、うちわ文字として人気の勘亭流など日本語フォント10書体が採用されました。



## メメントモリ

ゲーム

企業名:株式会社バンク・オブ・イノベーション

使用書体:UD新ゴ 繁体字 標準字体 R、UD黎ミン 繁体字 B

スマートフォン・PC向け新作RPG「メメントモリ」に、モリサワの繁体字フォントが採用されています。中国語(繁体字)版のUI(ユーザーインターフェース)にご利用いただいています。



## Video BRAIN

クラウドサービス

企業名:株式会社オープンエイト

使用書体:モリサワフォント197書体

動画編集クラウドサービス「Video BRAIN」では、197書体のモリサワフォントがWebフォント・サーバーアプリフォントとして導入されています。動画内のテロップ(字幕)表示などで利用できます。



[インタビューはこちら▶](#)



# モリサワが第22回「佐藤敬之輔賞」 企業・団体部門を受賞

モリサワは、長年提供してきたフォント製品「MORISAWA PASSPORT」やその後継サービスである「Morisawa Fonts」の功績が認められ、NPO法人日本タイポグラフィ協会による第22回「佐藤敬之輔賞」企業・団体部門を受賞しました。

佐藤敬之輔賞は、タイポグラフィーに関する革新的な提言、研究発表、デザイン教育などで活躍された佐藤敬之輔氏を賞名とし設置された賞で、タイポグラフィーの分野で活動する個人・団体に贈られるものです。

このたびの受賞は、モリサワのフォントサービスをご愛顧くださる、ユーザーのみなさまのご支援があってこそのものでした。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

受賞したモリサワの代表的製品のひとつであるMORISAWA PASSPORTは、2005年からご提供しているフォントのサブスクリプションサービスです。2023年4月現在、多言語やユニバーサルデザイン(UD)フォントを含む1,500以上の書体がラインナップされています。

MORISAWA PASSPORT 登場前の商業用フォントは、1書体ごとの高額なパッケージ販売が主流だったため、使われる書体の幅も狭くなりがちで、制作データのやりとりも煩雑な状況が見られました。しかし、多様なフォントが定額で使い放題になるMORISAWA PASSPORTは、異なる会社同士でも制作データの伝達が容易となり、自由なデザイン表現に欠かせないツールとして広くご利用いただくようになりました。

## MORISAWA PASSPORT



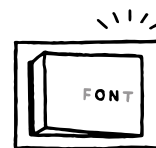
リリース当初(2005年)のMORISAWA PASSPORT

MORISAWA PASSPORTの製品は、後継サービス「Morisawa Fonts」へと段階的に役割を引き継ぎ、2028年度までに終了を迎える予定です。新しいMorisawa Fontsは、デバイスに依存しないユーザー単位のライセンスで利用できるクラウド型フォントサービスとして、テレワークなど現代の働き方にも対応した製品です。今後もモリサワは、ユーザーのみなさまの声に寄り添いながら、より良いサービスを目指します。



Morisawa Fonts

さらに、このたびの受賞に際し、プロの方に向けたフォントの提供に留まらず、文字教育活動に注力してきたこともご評価いただきました。美術・デザインを学ぶ学生を対象とした「MORISAWA PASSPORT アカデミック版」の展開や、文字組版の特別出張授業の実施、FONT SWITCH PROJECTの情報発信などによって、デザインにおける文字の重要性や組版の知識をお伝えしています。今後も、文字とデザインの裾野を広げる活動を続けるとともに、豊かな文字コミュニケーションの発展に貢献してまいります。



フォントの感性を“ON”にする  
**FONT SWITCH PROJECT**  
supported by MORISAWA

学生向け製品の展開や情報発信を通じ、文字文化の発展に貢献します

フォントの新しいサブスクリプションサービス  
「Morisawa Fonts」  
<https://morisawafonts.com/>



# カタログポケットが「IAUD 国際デザイン賞2022」 インタラクティブデザイン部門の銀賞を受賞

多言語ユニバーサル情報配信ツール MCCatalog+ の専用ビューア「カタログポケット」が、「IAUD 国際デザイン賞2022」のインタラクティブデザイン部門において銀賞を受賞しました。

カタログポケット（以下カタポケ）は、PC・スマートフォンのブラウザやスマートフォンの専用アプリから、広報紙やガイドブック、フリーペーパーなどを無料で誰でも簡単に閲覧ができる多言語\*・音声読み上げ対応のデジタルブックツールです。

情報発信の手段として、全国で230以上の自治体に活用されています（2023年3月現在）。

今回の受賞は、カタポケが音声読み上げや多言語翻訳などデジタル技術を用いることで、より多くの人へ公平で質の高い情報提供を実現した点が評価されています。

またカタポケはデジタルならではの下記の機能を実装しており、多様な情報発信とともに多彩なユーザー体験を実現します。

モリサワでは多言語ユニバーサル情報配信ツール MCCatalog+ およびカタポケを、多様性を尊重する社会の実現やSDGsの目標達成に貢献できる製品と位置付けており、今後もお客様のSDGs推進活動や多文化共生の推進にお役に立てられるようご提案をすすめてまいります。

\*カタポケは日本語を含む10の国と地域の言語に対応しています

## ● カタポケの主な機能

スライドショー機能

限られたユーザーのみ  
閲覧ができる限定公開機能

音声／動画ファイルの埋め込み

串刺し検索として利用ができる  
本文検索機能

ハイパーリンク設定

閲覧ログ解析

SNSからの誘導で  
シームレスな情報提供

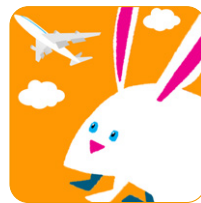
全国230以上の自治体情報を配信中!  
カタログポケットはこちら  
[www.catapoke.com/popular/](http://www.catapoke.com/popular/)



採用自治体のインタビューはこちら  
[www.mccatalog.jp/news/interview/](http://www.mccatalog.jp/news/interview/)



多言語配信ソリューション  
「MCCatalog+」製品ページはこちら  
[www.mccatalog.jp/](http://www.mccatalog.jp/)



一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)はその活動の一環として、“一人でも多くの方が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞」を実施しています。



カタログ配信自治体事例：横浜市 様「広報よこはま」



# 「やまがた創生プロジェクト研究」への貢献により 「紺綬褒章」受章

2022年3月から10カ月にわたり山形市の経済活性化および創造都市の推進を目指した「やまがた創生プロジェクト研究」が実施され、モリスワはこの貢献に対して「紺綬褒章」を受章しました。

紺綬褒章とは、公益のために私財を寄付した者に授与する日本の褒章の一つです。



本プロジェクトの締めくくりとして、「やまがた創生プロジェクト研究発表会」が実施され、研究員（10名）から課題に対しての取り組みが発表されました。発表会には市長、副市長はじめ地元の企業の方々が出席され、副市長からは「自社の強みを的確に分析し、それを活かした新規事業提案を多数見ることができたことは、山形市活性化の原資になる人材育成になった」と感謝の言葉をいただきました。

モリスワは、本プロジェクトの発足支援として、企業版ふるさと納税制度を利用し寄附を行ったことから、紺綬褒章を受章しました。また、プロジェクトにおいては、研究員がプレゼン資料を作成する過程で、フォント選択やレイアウトに関する講義や発表資料作成時の支援を行いました。

講義では、「伝わる」プレゼン資料をつくる意味や伝わるためのノウハウについてのプログラムを1日かけて行いました。伝えたいことを資料にまとめる際に重要な、情報の整理術や整理した情報をどのようにスライドに配置すれば良いかのレイアウト、情報の優先順位を表現できるフォントの選び方などをお話しました。講義内のワークショップでは、研究員が作成したプレゼン資料に対して講師がアドバイスしたり、リメイク操作を実演したりし、プレゼン資料作成のスキルを磨きました。

研究員からは、「普段よりプレゼン資料を作成することはあるが講義として学ぶ機会はなかったので、新たな学びとして大変刺激を受けた」と評価いただきました。

1-2(WHY).~ビジョン それはなぜか~

講義前

・社会に貢献できる人材に育て欲しい。  
(これからの社会を維持するには多くの人の力が必要)

・幼少期に身に着けた能力は、将来収入に大きく関わる。  
(子供の貧困問題から)

⇒子供たちの学習は、  
山形市の未来(経済、税収)の根源。

↳

1. ビジョン ~理由(WHY)~

子どもたちの学習は、  
山形市の未来(経済、税収)の根源だから。



STEAM

学習機会は●●●●●  
▶ 恒常的に●●●●●が必要な  
タイミングが増えている。

講義後

富岡氏が「やまがた創生プロジェクト研究発表会」で作成した発表資料


研究員の一人である株式会社富岡本店 次長 富岡宏一郎氏は、「経営者こそフォントの大切さを学ぶべき」と話します。「情報を整理し、適切なフォントで正しく情報を構成できることは、自分のアイデアを実現する行程で、周囲にしっかり伝え、理解いただく必要がある経営者にとって必要なスキルだ」とのことです。

フォントはビジネスシーンで意識されることは少ないですが「伝わる」情報作成のスキルは企業活動に直結します。本プロジェクトを通して、研究員のみならず「フォントを理解して活用できるスキル=企業活動を円滑に遂行するスキル」と認識していただけたことをとても嬉しく思います。

当社は、研究員の構想について今後もぜひフォントの力でバックアップできればと考えています。


本講義のレポートはこちら

<https://fontswitch.jp/post/13646>



富岡氏へのインタビューはこちら

<https://www.morisawa.co.jp/products/fonts/bizplus/case-studies/8766>



ジャンルを超えて多くの方に読んでほしい一冊

# 奇跡のフォント

教科書が読めない子どもを知って UDデジタル教科書体 開発物語



「UDデジタル教科書体」の開発者であり、現在も教育現場におけるフォントの重要性を普及している高田裕美が、自身の著書として『奇跡のフォント 教科書が読めない子どもを知って — UDデジタル教科書体 開発物語』（時事通信社）を出版しました。書籍の企画を持ち掛けた時事通信出版局 教育事業部の大久保昌彦氏に話を聞きました。

「私が担当した書籍『死にたかった発達障がい児の僕が自己変革できた理由 — 麹町中学校で工藤勇一先生から学んだこと』がありますが、著者の西川幹之 佑氏の強い希望で、その本文や見出しに「UDデジタル教科書体」を採用したところ、読者から書体の読みやすさの反響が大きかったので、この書体に興味を持ちました。

高田さんから、どんな思いがありこの書体を開発したのか？ と話を聞いたところ、順風満帆に完成したわけではありませんでした。次々と押し寄せる困難の中で、まるで針の小さな穴に細い糸が通っていくような、偶然の人との出会いや時代の後押しが重なって、8年をかけて奇跡のように生まれたフォントでした。偶然に見えて高田さんの情熱に引き



時事通信出版局 教育事業部  
大久保昌彦氏

寄せられるように人々の気持ちが動いたのかもしれない。

今の多様性が求められる時代に、障害やユニバーサルデザインに興味がない方にも、またこれからの時代に何が社会を動かしていくのか？ ビジネスを営んでいる方にもヒントになる本だと思います。ぜひジャンルを超えて多くの方に読んでほしいと願っています。」

著者の高田からは「前半は、私がどのようにタイプデザイナーになり、写真植字のための原字制作からデジタルフォントの過渡期を歩んできたのか？ 32年間の軌跡が書かれています。「烏口」や「文字盤」などのワードが懐かしい世代はもちろん、タイプデザイナーとしての書体開発のポリシーの一例として、若いデザイナーの方にも読んでもらえると嬉しいですね。また、デザイナーたちから敬遠されがちなUDフォントですが、自分の経験からの視点だけでなく、読み書きに困りごとを抱える人にも寄り添って、UDフォントの立ち位置をもう一度考えてみてほしいです」とコメント。

書籍を通して「UDフォント」の取り組みは、さらにさまざまな分野に広がりそうです。

『奇跡のフォント 教科書が読めない子どもを知って — UDデジタル教科書体 開発物語』時事通信社  
1,980円(本体1,800円+税)

書籍についてはこちらから▶



この記事の本文は「UDデジタル教科書体 R」を使用しています

## Morisawa Magazine は「Catalog Pocket」で配信中!

デジタルブック「Catalog Pocket (カタログポケット)」にて Morisawa Magazine を毎月配信中です。[このアイコン](#)がある記事には、誌面未掲載の画像などが追加されています!



お問い合わせ・ご要望は

ブランドコミュニケーション部広報宣伝課 E-mail: [pr@morisawa.co.jp](mailto:pr@morisawa.co.jp)

WebサイトでのMorisawa Magazine閲覧は

[www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news](http://www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news)

次号は 2023年9月発行 です



株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel: 06-6649-2151  
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel: 03-3267-1231  
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel: 022-296-0421  
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel: 052-201-2341

## フォント男子!

業界初!? フォント擬人化コメディ漫画!

Webコミックサイト「ヤングエースUP」にて無料掲載中!



●今号のフォント

表紙: ひげ文字、秀英にじみ四号かな

本文: 丸アンチック+ L、UD新ゴNT(AP版) R / DB、UDデジタル教科書体 R

見出し: 丸アンチック+ DB、見出ゴMB31、黎ミンB、UD新ゴ(AP版) DB、UDデジタル教科書体 M / B、ぺんばる